

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291500047		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホームあかね雲		
所在地	千葉県茂原市茂原541番地17		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、個々の利用者様が得意とされるものに携わり、日々メリハリのある生活を提供しています。(例)食事の盛り付け・洗濯物たたみ・下膳・掃除 等 ・四季折々の行事に参加するなど、外出活動に力を入れています。 ・同じ法人の他施設との交流の機会を、多く持っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. JR茂原駅から徒歩10分、近くにスーパーや商店街もある住宅街に立地しています。利用者は全員地域出身で、散歩、家族参加の小旅行等馴染みの地域で居心地良く過ごしています。 2. 理念の「地域交流を大切に」を既にも実践しています。地域行事(豆まき、夏祭り、ゴミゼロ運動)に積極的に参加し、ボランティア(茂原ラーメンの提供、ウクレレ演奏等)も受け入れています。自治会と合同で避難訓練・反省会を行う等、地域に着実に根ざして来ています。 3. 看護師であるケアマネジャーの指導の下、入所から終末期迄利用者に応じたケアを行い、排泄や意思疎通等の面で改善した例があり、看取りも5名行う等、家族から信頼されています。
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示して、共有できるようにしている。	法人の運営理念[「信の心」基本的人権の尊重]とホーム独自の理念「自然とのふれあい、地域の人々との交流を大切にします」を掲げ、職員は会議時に共有・確認し、日頃のサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・自治会に加入し、行事などに参加している。 ・茂原市社協やボランティアの協力のもと、地域交流を図っている。	殆どの利用者は地域出身で、散歩時近隣の人たちと挨拶を交わしたり、地域行事(豆まき、夏祭り、ゴミゼロ運動)に積極的に参加しています。ボランティア(茂原ラーメンの提供、ウクレレ)を受け入れたり、自治会と合同で避難訓練・反省会を行う等地域に着実に根ざして来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合に参加して、地域の方々に説明している。運営推進会議などでも説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催しており、市や自治会の要望等を伺い、運営に反映している。。	2ヶ月に1回開催を目標に、市職員、自治会関係者、利用者、家族、職員で今年度既に5回開催しています。議題として、行事予定・報告、避難訓練、地域との交流、入居者状況等を話し合っています。	議題に、外部評価と改善進捗状況、介護関係の基礎知識説明、介護業界のトピックス等を追加し、サービスの向上に活かすことが、期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項や活動状況の共有を行っている。同法人事務所においても、常に情報交換を行っている。	市担当には、必要な都度報告し相談しています。又運営推進会議に毎回市担当に出席を依頼し意見を聞いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には、積極的に参加している。	身体拘束廃止を謳い、職員は外部研修(県主催)を順番に受講し、受講した内容を他の職員に内部研修で説明することとしています。玄関は昼間施錠せず、職員は見守りを心がけ、利用者の素振りをみて随時外出に付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ほかの職員に資料等の提供をしながら、自分たちのケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所で後見人制度を使用している利用者様がいるため、その対応をしている事務の者に積極的に話を聞いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明等を提示・説明をして十分に納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に直接意見を聞いている。	職員は、来訪時や2ヶ月毎に開催する運営推進会議に出席する家族から意見・要望(利用者の散歩を増やす等)を聞き、運営に反映しています。ただ、聞いても「お任せします」と言うだけの家族もいるので、その場合は利用者本位のサービス提供に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や処遇に関する相談を随時受け付けており、人事考課時の面接でも相談を受けている。	管理者は、就業時や月1回の職員会議時に、職員から意見を聞き、運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、自己目標を立て、毎年2回人事考課表を作成し、自己評価、管理者評価、施設長との面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加するように指導している。管理者と常に意見交換している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会を設け、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に利用初期は関わりを多く持ち、関係づくりに努め、会話することが難しい方も日々の様子から把握することで信頼関係強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や心配事、生活やケアについて話し合っている。面会時や電話、手紙等で状態を伝え、信頼関係強化に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を検討している段階での話し合いにおいて、現在困っている事柄を聴取し、最も適したサービスについて情報提供や協力の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の先輩」ということが根底にあり、敬い且つともに生活している家族のような関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、サービス利用の際、チームの一員として最もご本人をよく知る重要なチーム員として認識いただけるように説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を制限することなく、都合のつく時間に来所されても、受け入れられるようにしている。	入所前住んでいた地域の友人、知人が時々来訪し、一緒にお茶を飲んだり、会話を楽しんでいます。住み慣れた地域への外出、外食、墓参りに家族が連れ出してくれる利用者もいます。昔鉄道会社に勤務していた男性を、鉄道の駅近辺に散歩に職員が付き添って行くこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお茶をしたり、家事を行ったり、利用者同士で助け合ったりする場面が見られる。職員は活動を一緒に行うことで、利用者同士の関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所したご本人との関係は途切れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が難しい場合は、性格や普段の様子から意向を認識するよう、努めている	会話が難しく単語・つぶやきだけで答える利用者には、うなずきや、表情等で意向を読み取るように努めています。職員は利用者の思い・意向について、入居前や途中経過で得た情報を、担当者会議等で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後も職員間で情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや支援の中で本人が出来ることを見極め、ケアにあたっている。また、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフやご家族からの意見を聞き、多くの観点からその方の評価を集めている。	介護計画は、看護師のケアマネジャーが、家族の意向、医師の所見、訪問マッサージ師の情報、月1回のモニタリング、カンファレンスでの職員の意見を織り込んで、6ヶ月毎に作成しています。なお、変化があった時には、随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記載し、情報を共有して、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の意見を傾聴し、問題点があれば、柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物の参加や買い物、食事会を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望により、医療機関への受診の支援を行っている。また、提携医療機関では定期的な往診といつでも電話相談をとれるような体制になっている。	提携医とは、月1回の往診と24時間対応の連携ができています。入居前からのかかりつけ医の往診を受ける利用者もいます。歯科医、その他の科の受診は、殆ど職員が付き添って通院し、内容を家族に報告しています。週2回マッサージ師の訪問治療を受ける利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者の健康管理・相談・助言を行っている。看護師は、直接対応を行うことで、個々の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、必要時には介護サマリーを記入し、情報提供をしている。面会に定期的に行き利用者ご本人やご家族が安心できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、ご家族に医療や生活の意向確認をして、連携医療機関に伝える。発生すると思われるリスク等の説明を伝えたうえ、ご本人・ご家族の理解・納得を得られるように対応する。	看取りは、これまでに5名行っています。入所時に看取りに関する指針を説明し、その時が来た時点で医師、看護師(ケアマネジャー)、管理者、家族で相談し、家族と同意書を交わしています。職員は、緊急時対応、喀痰吸引研修を年1回受け、看護師のケアマネジャーから随時医療的知識や終末期についての指導を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を社内研修やカンファレンス時に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設から避難所までの避難訓練を行い、問題点を話し合う。災害時、自治会からの応援態勢が出来ている。	年2回消防署立会いで、自治会と合同で、近くの避難所迄の避難訓練(夜間想定、日中想定)を実施しています。スプリンクラー、自動通報装置、消火器等必要な防火設備は整っており、備蓄も3日分準備されています。	首都圏直下型地震や各種災害が心配されること、避難弱者を抱えていること、非常時には自治会から頼りにされる可能性もあること等を考え、防災訓練の追加と備蓄の見直し(数量、内容、保管方法)が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持って、利用者に接している。	利用者は、原則「～さん」付けで呼んでいます。年1回プライバシー研修や毎月の会議時で、管理者が職員に対し周知徹底を図っています。着替え・湿布の張替えは居室で行い、トイレ・浴室のドアの開閉等の際にも、プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択が出来るように「○○しませんか？」や「どちらがよいですか？」等の声掛けに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「～したい」という気持ちを大切にして、希望に添う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご本人の意向に沿って着替えを行っている。お化粧をしている利用者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に配膳を行っている。また、陶器の食器にこだわりの食事を提供している。	業者が栄養バランスを考えた献立に従い食材を納入しています。月1、2回利用者の希望を織り込んだ献立や弁当を決め、食材の買い物、調理等利用者も一緒に行い、楽しんでいます。ボランティアから茂原ラーメンの提供を受け皆で楽しく味わうようなこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、盛り付けの量や形態の調整をしたり、お茶の時間を設けて水分不足にならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に行っている。 ・自分で歯磨きが出来る方、声掛けによって実行できる方、それぞれの方法で実施していただき確認をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄に合わせ、トイレ誘導を行っている。 ・トイレのドアを赤くして、判別しやすくしている。	排泄表によるトイレ誘導を原則にしています。利用者に合わせた支援を続けた結果、オムツ使用からリハパン使用になったり、リハパンを使用していたものが布パンツで過ごせるようになるといった改善例が見られます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食の工夫に取り組み、意識的なマッサージ、体操、水分摂取をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	菖蒲湯・ゆず湯など季節感を出すよう、工夫している。	原則週2回入浴しており、適時シャワー浴や清拭をすることもあります。簡易リフト浴機が使用され、利用者・職員の負担軽減になっています。訪問入浴サービスを受けている98歳になる重度の利用者もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を長くとる方、午後に睡眠する方など個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表を保管し、常に閲覧し、確認が出来るようになっている。調剤薬局との連携により詳しい薬の情報を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や経歴により個々にあった役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフとの外出は、日常的に行っている。	天気の良い日は、毎日30分位職員と散歩、日光浴をしています。利用者の希望を入れ、車で近郊の公園に花見、紅葉狩りに出かけたり、チューリップ祭りに出かける等、遠出を楽しんでいます。又家族の参加・協力の下、電車を使った小旅行も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自身での金銭管理は行っていない。買い物時、預り金を渡し、入居者様または職員が会計を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りを変更したり、生け花を飾り、環境作りに努めている。	リビング兼食堂は、明るく、広く、清潔で、利用者が居心地良く過ごせるように配慮されています。季節の花、観葉植物、テレビが置かれ、季節行事の飾りつけ、カレンダー、行事写真等が貼られ、季節感、生活感を感じます。北国の春の曲に合わせ、皆でリハビリを兼ねた「あかね雲体操」を随時しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各種、雑誌・朝刊を自由に読めるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入口にご本人の似顔絵をかけてあり、自宅で使用していた置物や仏壇を持ち込み、心地よく過ごせるよう努めている。	居室は、エアコン、クローゼット、介護用ベッドが備え付けで、それ以外は持ち込み自由です。適度の広さもあり、利用者は、馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどにより、できるだけ介助なしで移動できるようにしている。トイレの認識については、赤テープで枠取りをして、視覚的に理解してもらうよう、工夫している。		